

(2) 就学前教育・保育及び学童保育のニーズ推計の結果について

【推計値の算定対象】

- 就学前の教育・保育の量の見込み
- 児童育成クラブ事業(放課後児童健全育成事業)の量の見込み

【見直しのポイント】

≪推計人口≫

- 最新の人口統計データや合計特殊出生率を反映
- 地区・校区別の傾向を反映した人口推計モデルの作成(都市開発)

≪教育・保育≫

- 当初計画は、H29までの確保方策を計画したものであり、H30以降については、H27・H28の認定状況や利用状況を勘案して改めて必要に応じた確保方策を講じる必要がある。
- 当初計画では、アンケート調査の結果から、教育・保育のそれぞれについて利用意向の推計値を作成したため、重複して集計される回答があり、総数としては推計人口を上回る量の見込みとなっていたため、今回の見直しでは、推計人口の児童がどのサービスについて利用希望があるかという視点から、推計値を作成した。
- 当初計画の年齢区分は、「0歳児」「1・2歳児」「3歳児以上」の3区分であったが、提供体制の確保に際しては年齢毎の定員管理が必要であり、量の見込みについても年齢毎の推計値が有効である。

≪児童育成クラブ≫

- 利用者が当初計画における量の見込みを上回るペースで増加していることから、こうした状況を反映した計画の見直しが必要である。
- 当初計画では、量の見込みを児童のクラブ出席率(平均値81.5%)を勘案して算定していたが、クラブにより出席率が異なることや、定員管理の簡素化から、登録児童数ベースの推計値に改めた。

【推計人口】

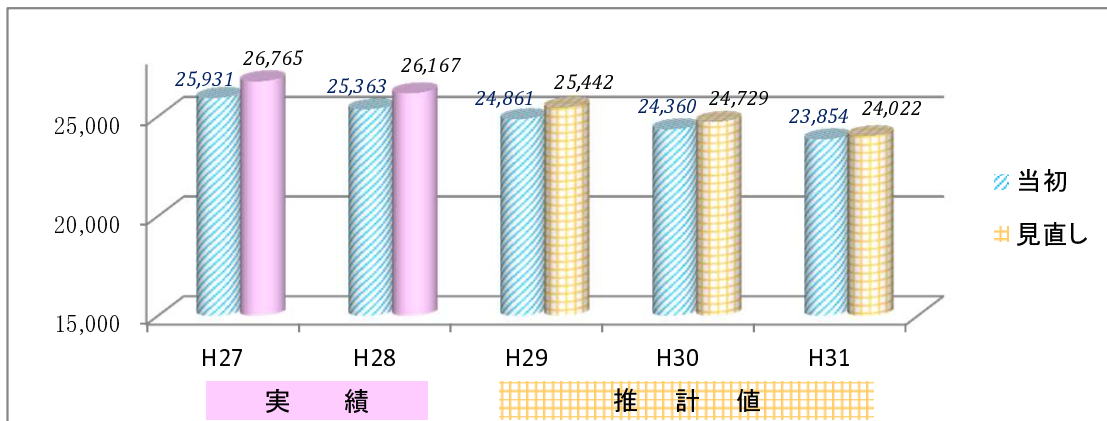
「未就学児（0～5歳）」

当初計画策定時

	H27 見込	H28 見込	H29 見込	H30 見込	H31 見込
0歳	4,023	3,910	3,837	3,764	3,690
1歳	4,242	4,136	4,061	3,988	3,914
2歳	4,346	4,239	4,165	4,090	4,014
3歳	4,324	4,230	4,153	4,077	4,000
4歳	4,382	4,291	4,214	4,137	4,059
5歳	4,614	4,557	4,431	4,304	4,177
合計	25,931	25,363	24,861	24,360	23,854

見直しに伴う人口推計モデル

	H27 実績	H28 実績	H29 見込	H30 見込	H31 見込
0歳	4,198	4,230	4,103	3,986	3,877
1歳	4,369	4,245	4,121	3,997	3,873
2歳	4,499	4,264	4,140	4,016	3,892
3歳	4,544	4,449	4,303	4,158	4,012
4歳	4,557	4,479	4,322	4,165	4,008
5歳	4,598	4,500	4,453	4,407	4,360
合計	26,765	26,167	25,442	24,729	24,022



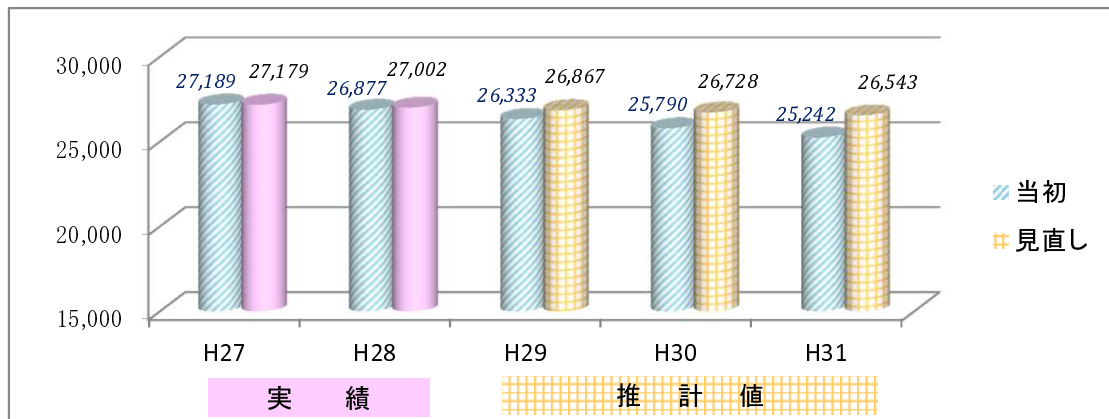
「就学児（6～11歳）」

当初計画策定時

	H27 見込	H28 見込	H29 見込	H30 見込	H31 見込
6歳(小1)	4,539	4,475	4,346	4,217	4,087
7歳(小2)	4,377	4,310	4,179	4,048	3,917
8歳(小3)	4,375	4,300	4,167	4,035	3,902
9歳(小4)	4,552	4,471	4,334	4,198	4,061
10歳(小5)	4,573	4,558	4,551	4,543	4,535
11歳(小6)	4,773	4,763	4,756	4,749	4,740
合計	27,189	26,877	26,333	25,790	25,242

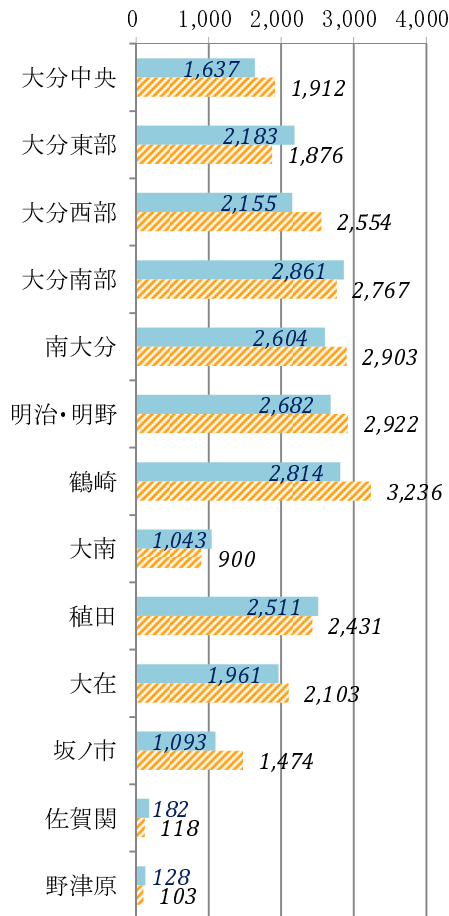
見直しに伴う人口推計モデル

	H27 実績	H28 実績	H29 見込	H30 見込	H31 見込
6歳(小1)	4,610	4,560	4,367	4,329	4,277
7歳(小2)	4,657	4,586	4,508	4,295	4,246
8歳(小3)	4,511	4,589	4,650	4,590	4,432
9歳(小4)	4,512	4,493	4,438	4,584	4,500
10歳(小5)	4,356	4,474	4,493	4,454	4,550
11歳(小6)	4,533	4,300	4,411	4,476	4,538
合計	27,179	27,002	26,867	26,728	26,543

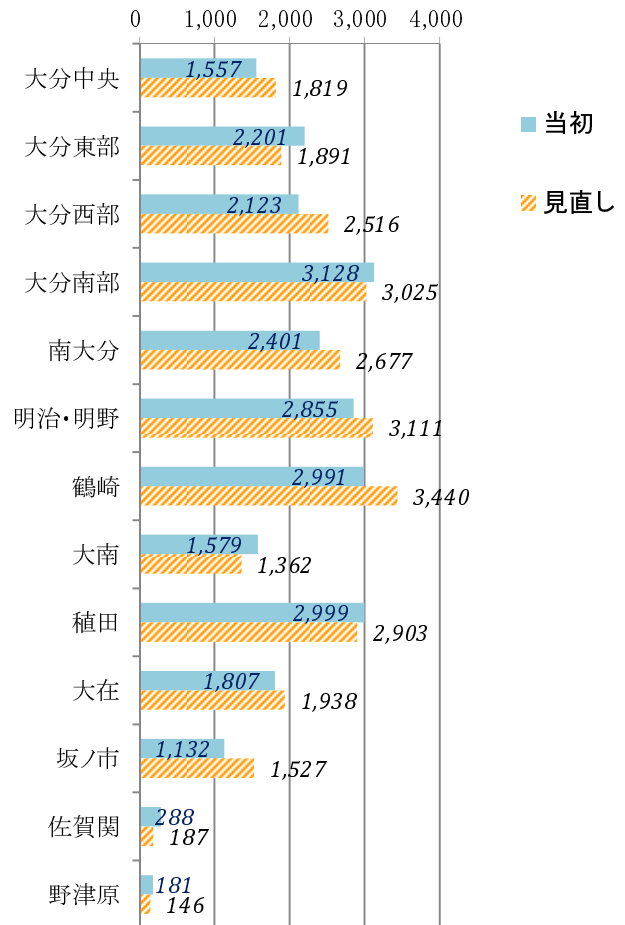


「地区（公民館）別の推計人口（H31）」

未就学児童（0～5歳）



就学児童（6～11歳）



「当初計画との比較等」

- 大分駅周辺の開発等の影響により、「大分中央」「大分西部」は増加が見込まれる。
- 区画整理等に伴う宅地開発により、「明治・明野」「坂ノ市」は増加が見込まれる。
- 小規模の分譲住宅の開発等の影響により、「南大分」「鶴崎」は増加が見込まれる。
- 「大分東部」「大分南部」「大南」や、郊外の「佐賀関」「野津原」等は減少が見込まれる。

「人口推計の算定方法」

1. コーホート要因法によるベースモデルの作成
 - ・H27国勢調査の速報値及びH28.9末現在の住民基本台帳等による1歳刻み人口の変化率の算定
 - ・H27国勢調査データによる生残率、純移動率を反映
2. 地区別の特殊事情（開発等）による人口動態への影響を考慮

■就学前の保育における量の見込み

「算定方法」

○H27・H28年度については、各施設の「入所児童数＋未入所児童数」実績を、保育利用ニーズとする。

○H29年度以降については、女性の就業率・育児休業取得率の伸びが継続すると見込み算定

※当面の間は、現在と同程度の伸び率を想定

○上記によって算定した年度別・年齢別の利用希望率を、推計人口に乗じて量の見込みを作成

当初計画策定時の量の見込み

	H27 見込	H28 見込	H29 見込	H30 見込	H31 見込
0歳	1,114	1,110	1,103	1,098	1,091
1歳	—	—	—	—	—
2歳	—	—	—	—	—
1・2歳計	4,195	4,171	4,149	4,129	4,108
3歳	—	—	—	—	—
4歳	—	—	—	—	—
5歳	—	—	—	—	—
3歳以上計	6,952	6,914	6,880	6,841	6,804
全体計	12,261	12,195	12,132	12,068	12,003

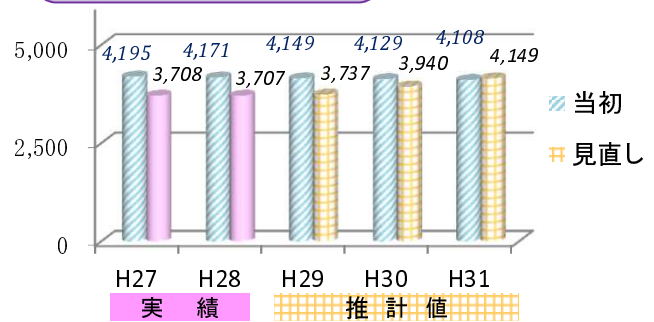
今回の見直した結果(実績およびH29以降の推計値)

	H27 実績	H28 実績	H29 見込	H30 見込	H31 見込
0歳	1,536	1,728	1,697	1,792	1,895
1歳	1,908	1,708	1,844	1,944	2,047
2歳	1,800	1,999	1,893	1,996	2,102
1・2歳計	3,708	3,707	3,737	3,940	4,149
3歳	1,755	1,710	1,929	1,912	2,006
4歳	1,795	1,793	1,869	1,841	1,818
5歳	1,637	1,768	1,749	1,780	1,800
3歳以上計	5,187	5,271	5,547	5,533	5,624
全体計	10,431	10,706	10,981	11,265	11,668

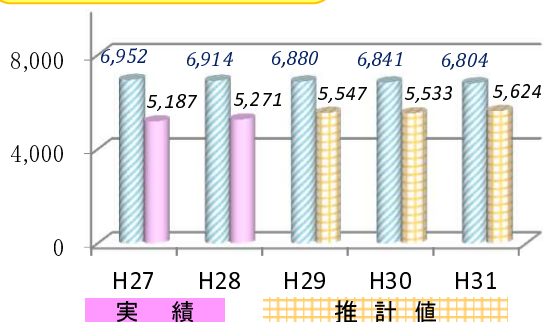
0歳児の量の見込み



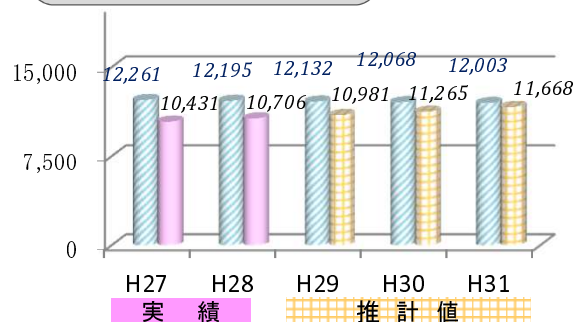
1・2歳児の量の見込み



3～5歳児の量の見込み



保育全体の量の見込み

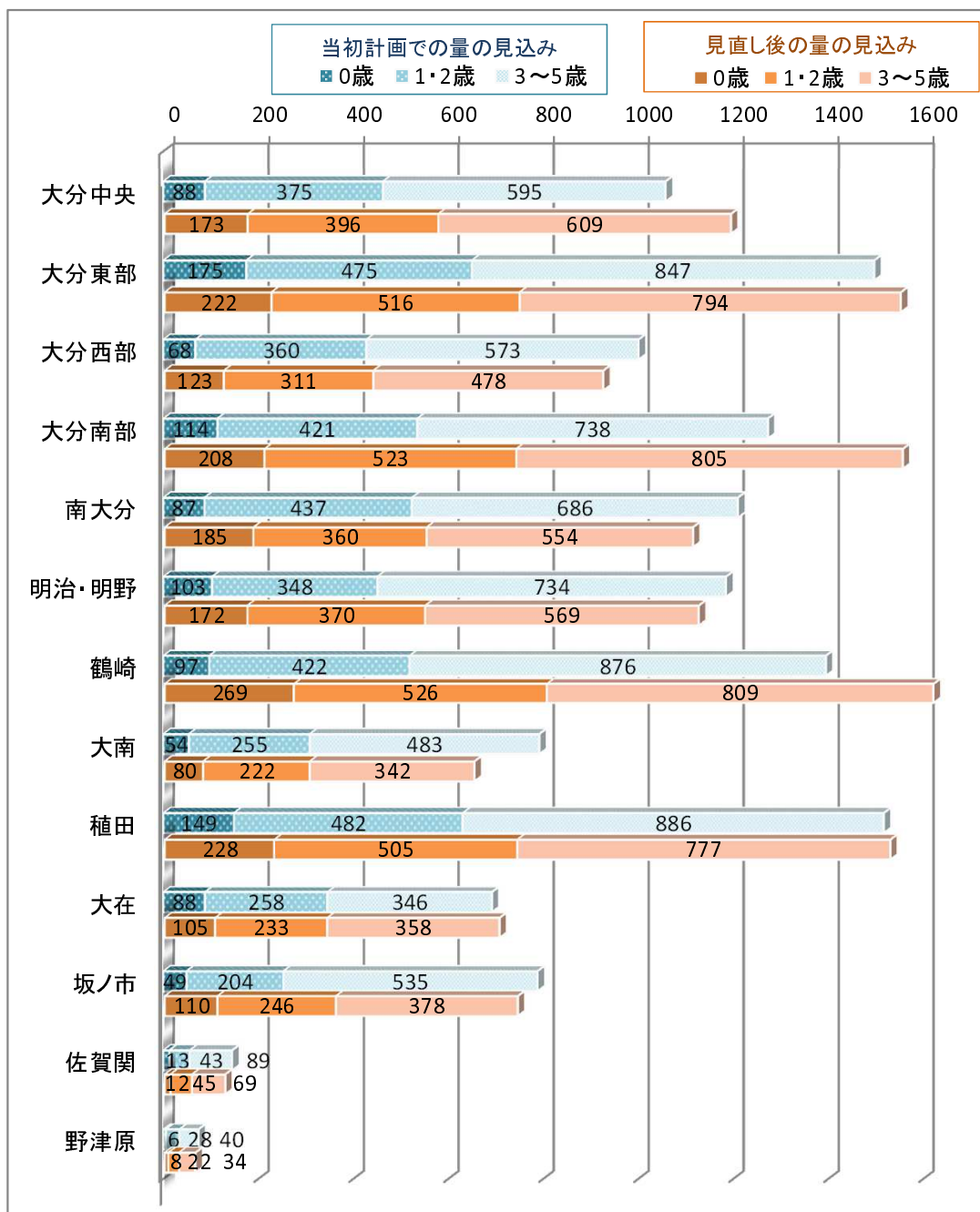


「当初計画との比較等」

○「0歳児」については、既に当初計画における量の見込みを大きく上回る利用申込実績がある。

○「0歳児」を中心に、保育サービスを低年齢から利用する希望が強まっている傾向が伺える。この傾向は、育児休業を取得し、出産後1年程度で職場復帰する母親の増加が影響していると考えられる。

「地区別の保育における量の見込み(H31)」



「当初計画との比較等」

- 保育サービスの利用・申込状況から、居住区域以外の、勤務地や通勤経路等の施設も選択されることも多く、こうした傾向を反映した。
- 上記理由により、人口推計値が増加する地区や、利便性の高い地区における量の見込みが、当初計画と比較して増加している。

■就学前の幼児教育(1号認定)における量の見込み

◀算定方法▶

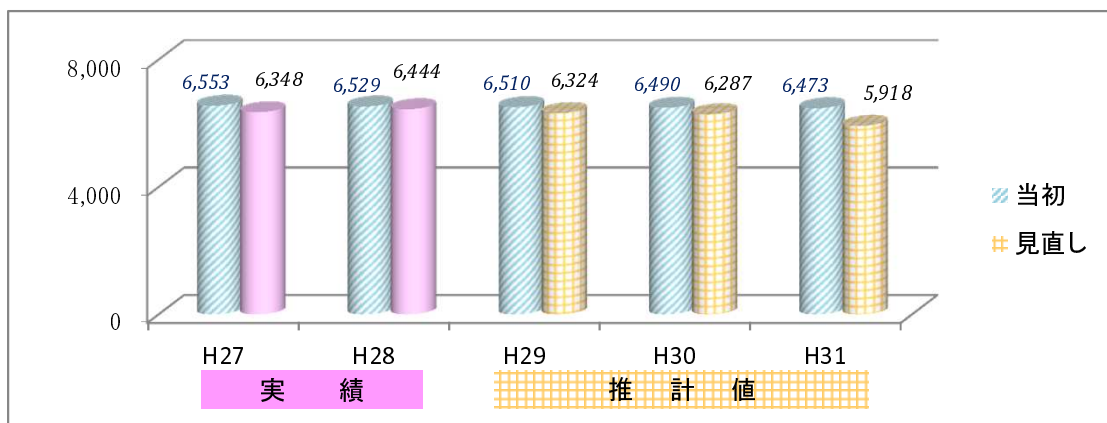
- 幼稚園及び認定こども園(1号認定)については、保育を必要としない児童のうち、現行と同等程度の利用が継続すると見込む。
- 幼稚園の入園を希望する年齢については、施設の受入体制との間にギャップがあるとする意見がある。そのため、H25に実施したアンケート調査結果から入園希望年齢の分布を量の見込みに反映する。

当初計画策定時の量の見込み

	H27 見込	H28 見込	H29 見込	H30 見込	H31 見込
3歳	—	—	—	—	—
4歳	—	—	—	—	—
5歳	—	—	—	—	—
合計	6,553	6,529	6,510	6,490	6,473

今回の見直した結果(実績およびH29以降の推計値)

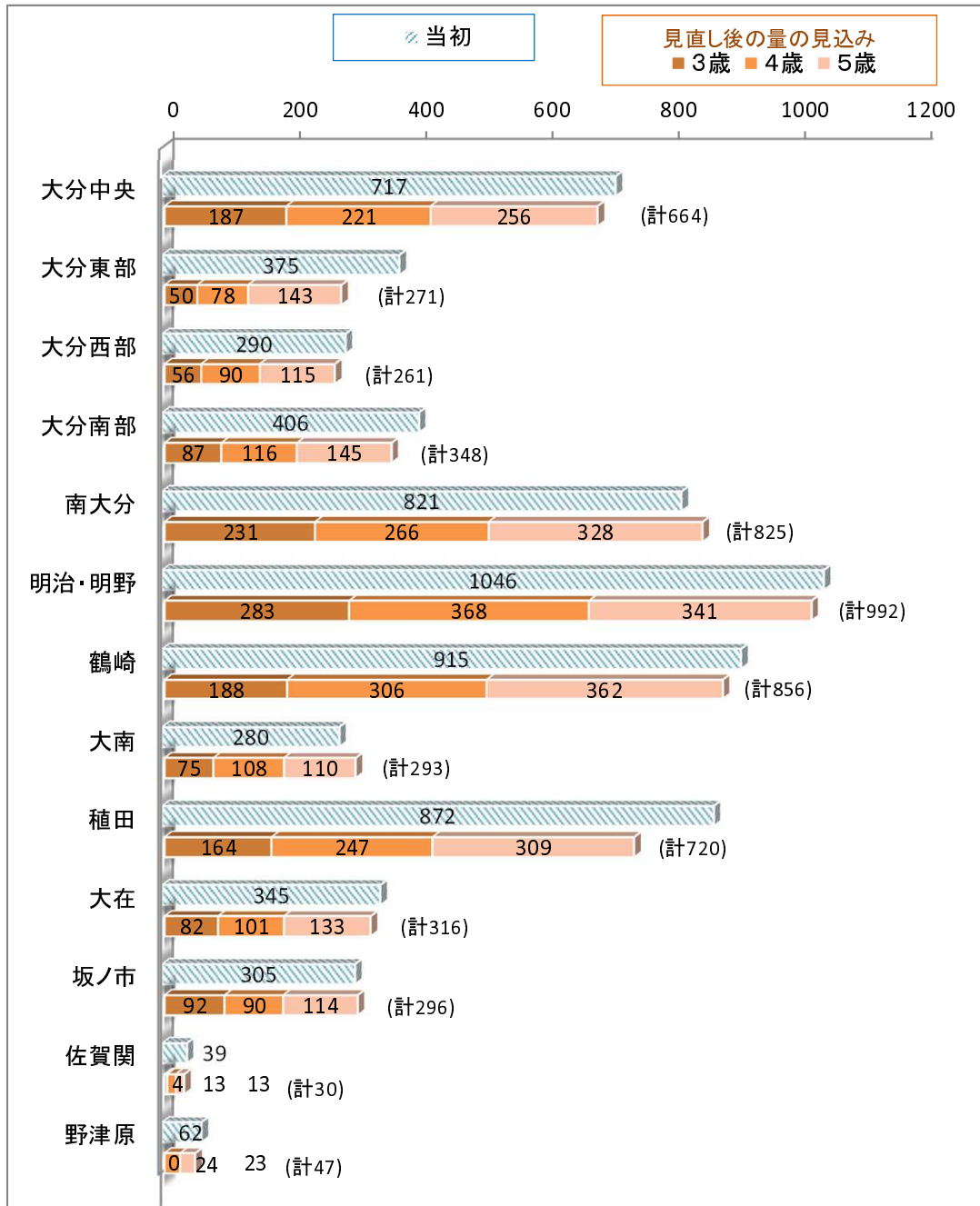
	H27 実績	H28 実績	H29 見込	H30 見込	H31 見込
3歳	1,651	1,733	1,679	1,682	1,498
4歳	2,299	2,303	2,209	2,152	2,030
5歳	2,398	2,408	2,436	2,453	2,390
合計	6,348	6,444	6,324	6,287	5,918



◀当初計画との比較等▶

- 当初計画における量の見込みは、保育利用や幼児教育を希望する2号認定と重複して利用意向を算定していたため、実態と比較して大きな数字となっていた。
- 母親の就労環境の変化により、3歳未満で保育サービスを必要とする保護者が増加する傾向にあることから、相対的に幼稚園等(1号認定)の利用意向は低下すると考えられる。

「地区別の幼児教育（1号認定）の量の見込み(H31)」



※地区別の量の見込み(見直し後)については、市全体の量の見込みに対して、現在の地区別利用状況の割合を乗じたもの

「当初計画との比較等」

- 各地区とも、3～5歳の総数としては現在の実利用数よりも量の見込みが減少すると見込まれる。
- その一方で、園により年齢毎の定員があるため、各地区の年齢別の量の見込みに見合った提供体制を整えていく必要がある。
- 幼稚園や認定こども園は通園バスを利用可能な施設が多く、隣接地区等での受入も十分可能である。

■児童育成クラブ事業における量の見込み

「算定方法」

- 現在クラブ利用率が急激に上昇している。(新1年生の利用率…H25:28.4%→H28:35.4%)女性の就業環境の変化や、保育の定員拡大の影響もあり、この傾向はしばらく継続するものと考えられる。
- 利用者は学年が進級するにつれて減少する傾向にあるが、施設整備を実施したクラブ等では、学年が進級してもクラブを継続する割合が高い傾向にある。
- 新1年生のクラブ利用率が年率換算7%程度向上すると仮定し、2年生以上は施設が充足したクラブでの利用継続率のデータから、各学年毎のクラブ利用率を算定し、各年度の推計児童数に乗じて量の見込みを算定

当初計画策定時の量の見込み

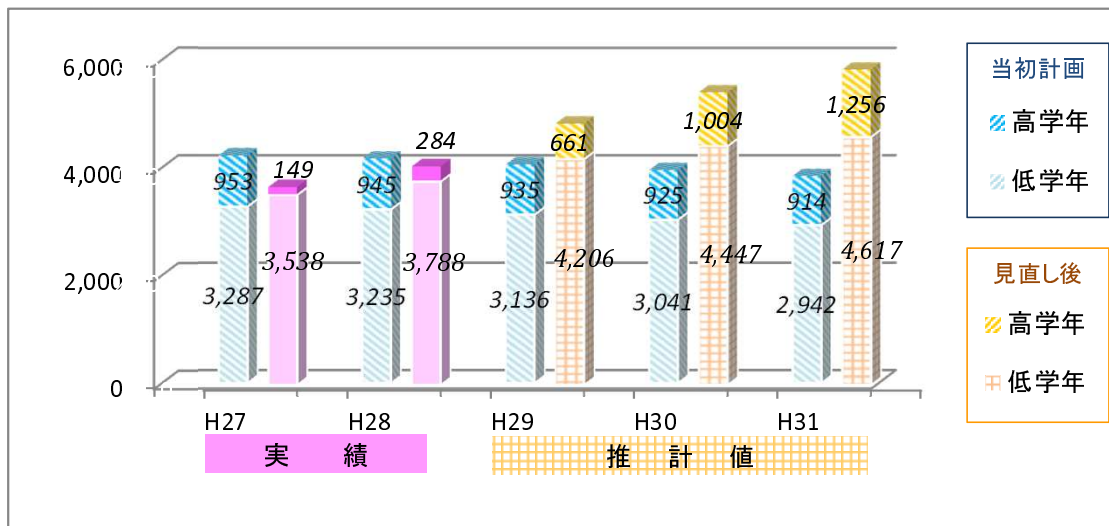
	H27 見込	H28 見込	H29 見込	H30 見込	H31 見込
低学年	2,794	2,750	2,666	2,585	2,501
高学年	810	803	795	786	777
合計	3,604	3,553	3,461	3,371	3,278

↓
実利用数から登録児童数ベースへ
利用率換算分を割戻

	H27 見込	H28 見込	H29 見込	H30 見込	H31 見込
低学年	3,287	3,235	3,136	3,041	2,942
高学年	953	945	935	925	914
合計	4,240	4,180	4,071	3,966	3,856

今回の見直した結果(実績およびH29以降の推計値)

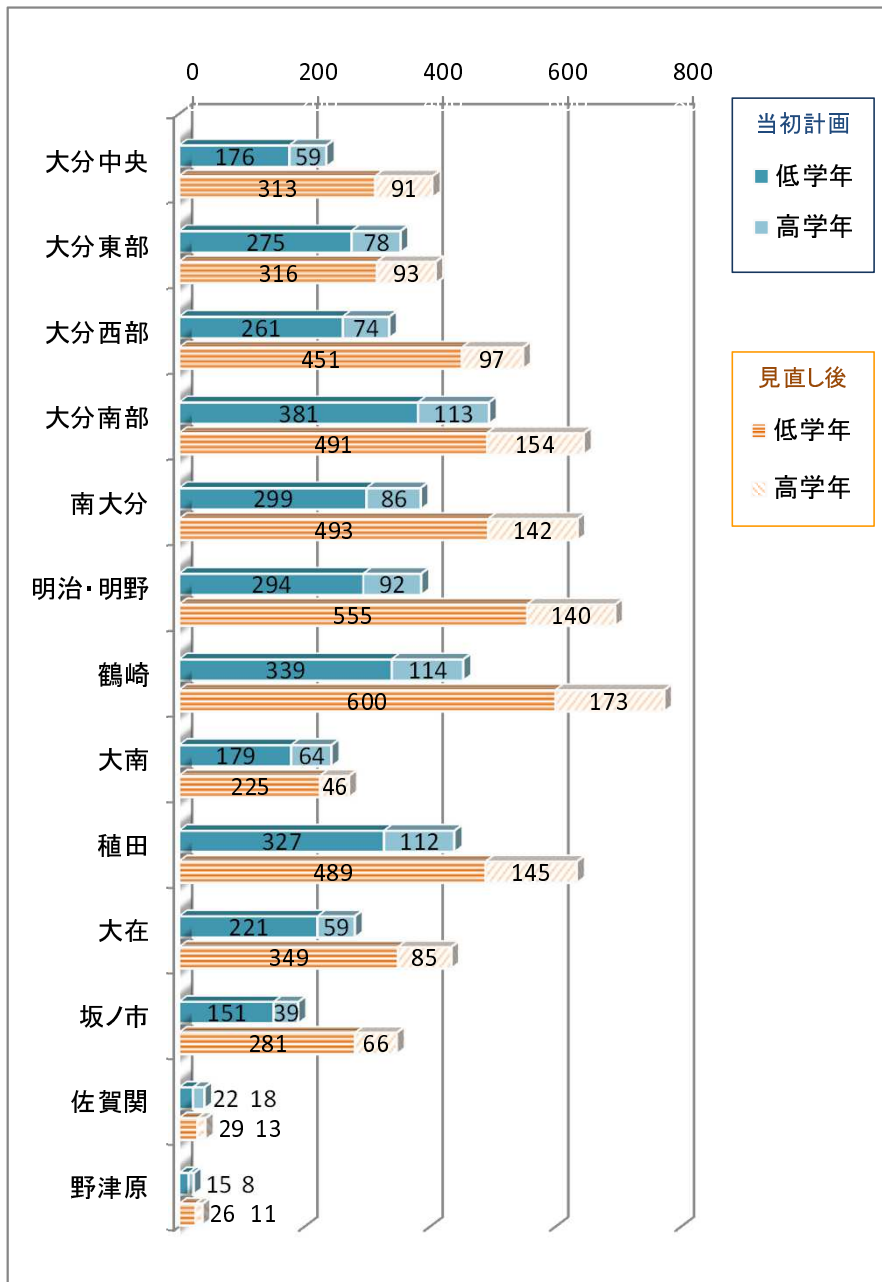
	H27 実績	H28 実績	H29 見込	H30 見込	H31 見込
1年生	1,473	1,520	1,674	1,703	1,726
2年生	1,210	1,325	1,406	1,549	1,575
3年生	855	943	1,126	1,195	1,316
低学年計	3,538	3,788	4,206	4,447	4,617
4年生	102	199	472	563	598
5年生	30	62	139	330	394
6年生	17	23	50	111	264
高学年計	149	284	661	1,004	1,256
全体合計	3,687	4,072	4,867	5,451	5,873



「当初計画との比較等」

- 当初計画は、アンケート調査に基づくクラブ利用意向を固定値としていたが、H27・H28年度の利用実態から、今後も継続的に利用率が増加すると仮定して推計値の算定方法を見直した。
- 上記の結果、当面は児童育成クラブの量の見込みは急激な拡大を続けると見込まれる。
- 高学年児童は、新規にクラブ利用を申し込み実態は少ないことから、現在利用している児童が高学年になっても継続して利用することにより徐々に利用率が伸びていくと仮定して推計

「地区別の児童育成クラブにおける量の見込み(H31)」



「当初計画との比較等」

- 児童育成クラブにおける量の見込みは、全ての地区で今後も増加することが見込まれる。
- 特に、児童数が増加する地区においては、大きな伸びが見込まれるため、提供体制の確保について早急な対応が必要となってくると考えられる。
- クラブ利用希望者の増加により、登録児童数が100人を超えるクラブの大規模化が多数の校区で生じることが見込まれる。施設及び職員の確保や運営面等、大規模クラブ特有の課題を抱えるクラブの増加が想定される。